

農作物の生育状況と今後の見通し

農業振興戦略監とつとり農業戦略課 研究・普及推進室 まとめ
令和2年12月14日 現在

作物名	生育状況等	今後の見通しと対策	
作物	大豆	・長梅雨の影響で播種時期が遅れた8月上旬播種ほ場では、11月中下旬から収穫適期となり、12月上旬で収穫はほぼ終了。小粒傾向で収量は少ないが、品質は良好。	・次作年に備え、用排水路を点検し、ほ場の排水に努める。
	麦	・全般的に出芽とその後の生育は順調である。 ・一部で、スズメノテッポウやトゲミノキツネノボタンなどの雑草の発生が見られる。	・排水を促しながら年内生育量を確保する。 ・雑草の発生が多いほ場は、時期を失ないように茎葉処理剤を散布する。 【降雪が続く場合】 ・雪解け後は排水溝を点検し、明きよと排水溝を連結する等ほ場の排水に努める。 ・積雪期間が長期にわたった場合は、雪解け後にできるだけ早く窒素肥料を追肥し、生育の回復に努める。 ・雪害は、根雪が100日を越えると多く発生する。根雪が長引くと予想される場合には、融雪資材(育苗培土、堆肥等)の散布を行う。
果樹	なし	・各地区でせん定指導会が開催され、せん定作業が始まっている。	【共通】 ・病害虫の越冬量を減らすため、罹病した枝葉の処分を励行する。 ・棚栽培の果樹は、大まかな枝の間引きを早めに行うとともに、モウソウ竹などの突き上げ柱を入れて、棚面の積雪による損壊を防ぐ。 ・カキの垂主枝など、大きな枝にも突き上げをして、積雪による折損を防ぐ。 ・かん水施設や防除用の配管などは水抜きを行い凍結による破損を防ぐ。 ・カイガラムシ被害が多いカキ園では冬場に粗皮削りを実施する。
	かき	・富有は12月上旬に出荷終了。例年より小玉傾向で、カイガラムシやカメムシの被害が多い傾向。 ・花御所(郡家12月16日終了)は収穫終盤。カイガラムシ被害が多い傾向。	
	ぶどう	・せん定作業の終盤である。	
野菜	白ねぎ	【春ねぎ】 ・概ね順調に生育。例年より1～2週間生育が早い。 【夏ねぎ】 ・トンネル作型の定植が11月下旬から始まっている。定植後は順調に生育。 【秋冬ねぎ】 ・出荷量が増え、本格出荷期を迎えている。遅れていた生育は徐々に回復し、2L規格以上の割合が5割程度となった。一部で小菌核腐敗症や葉枯病が発生しているが、大きな問題とはなっていない。	・秋冬ねぎは取り遅れによる品質低下がないよう、適期収穫に努める。 ・春ねぎは、生育に応じた土寄せを行い、倒伏を防止する。 ・小菌核腐敗病の防除を徹底する。 ・積雪地帯では畝に紐を張るとともに、降雪時は紐で葉を挟んで固定し、雪による葉折れを防止する。 ・初夏とり作型は過剰施肥による過肥大で抽台を招かないよう肥培管理する。
	ブロッコリー	【秋冬どり】 ・遅れ気味であった生育は11月中旬以降の気温上昇の影響で進み、出荷最盛期を迎えている。収穫進捗率は4割程度でほぼ計画通りの出荷となっている。	・収穫遅れによる品質低下が出ないよう、適期収穫に努める。 ・べと病、菌核病の防除を徹底する。
	らっきょう	・11月末の福部地区生育調査では分球数が平年よりやや少ないが、地上部は平年並みで概ね順調に生育。北栄地区も順調に生育。	・白色疫病の予防散布を計画的に実施する。 ・種球ほ場のウイルス様株の抜き取りを徹底する。
	抑制ミニトマト	・出荷はほぼ終了。単価安で収穫を切り上げたほ場が多い。	・最終出荷量は前年より少ない見込み。
	にんじん	・11月中旬以降の気温上昇で生育が進み、12月は肥大が良く、品質が良いものが収穫されている。	・生育が進んだこともあり、収穫遅れで過肥大とならないよう生育状況を確認しながら計画的に収穫する。 ・斑点細菌病の防除を徹底する。
	いちご	・頂花房の収穫が中晩となっている。例年より1週間程度の遅れ。	・現在、「章姫」、「とっておき」の出荷が中心だが、12月下旬から「紅ほっぺ」が本格出荷となる見込み。 ・二重被覆等で夜間温度を確保し、草勢維持に努める。
花き	シンテッポウユリ	【抑制作型】 【北栄町】 ・週2回の集荷で、日量1,000本、平均単価105円/本。 ・収穫は9割以上終了。12月1日に行った調査では約6,000本がほ場に残っているとみられる。 ・目立った病害虫の発生は見られない。 【倉吉市】 出荷はほぼ終了した。	・八頭地区では露地季咲き作型の播種は12月下旬ごろから1月中旬にかけて順次行われる予定。品種はオーガスタEXと雷山2号セレクト(いずれもムラカミシード)が中心。 ・定植時の労力削減のため、チェーンボット栽培に取り組む予定。 ・抑制作型ではハウスの保温に努めるとともに、病害虫防除を徹底する。
	ストック	【東部地区】 【鳥取市】 ・彼岸出荷予定のアイアンに出蕾を確認。通常の彼岸出荷作型に対して1ヶ月以上出蕾が早い。播種が早すぎた(9月中旬)のが原因。生育揃いは良好。 【中部地区】 【倉吉市】 ・生育は順調で現在出荷中。ほ場によって、花芽分化から開花までの日数に大きな差がある。日量は20ケース。単価は50円/本。 【北栄町】 ・現在収穫盛期。8月25日播種分が12月5日頃から収穫開始となっている。11月15日～11月22日の高温の影響で11月23日頃から出荷が集中。他産地からの荷も市場に集中したため、単価が急落した(SD 11月18日 80円/本→11月25日 37円/本 1週間で半値)。12月中旬現在やや回復傾向。SD日量30,000本、単価50円/本、SP20,000本、単価60円/本。 ・菌核病が散見される。一部ほ場でアブラムシの発生が見られる。 【西部地区】 ・JA鳥取西部の出荷実績は計画対比51%、販売実績は計画対比55%。現在、日量60ケース程度でコンスタントに出荷されている。平均単価は58円/本(12月11日)。 ・12月16日出荷(12月18日売り)から年末需要に合わせて5輪開花で収穫する(通常7輪開花)。 【大山町】 ・中山、名和地区で出荷中。昨年に比べ生育が進んでいる。 ・試験的に導入しているオールダブル品種のダイヤホワイトも12月11日頃、出荷盛期。出荷率が高いとの評価。 ・一部にアブラムシ、灰色カビ病、菌核病が見られるが、出荷への影響は少ない。 ・彼岸出荷予定の9月25日播種のアイアンが既に出蕾し、例年に比べて1ヶ月以上早い生育状況となっている。	・彼岸出荷予定で生育が進んでいるところは、ハウスサイドや入口を可能な限り開放し、低温管理とすることで開花を遅らせる管理をする。ただし、降雪が予想される時は降雪前にハウスを密閉し、雪害に備える。また、低温が予想される時も同様に早めにハウスを密閉し、凍害防止を図る。 ・12月11日頃にJAを通じて各農家にストックの凍害・積雪対策の資料を配布し注意喚起(西部地区)。 ・菌核病の発生が予想されるため、防除を徹底する。 ・南部町は年明けから収穫開始の見込み。 ・今後気温が低下すると見込まれるため、全体の出荷は鈍ると思われる。
	イタリアンライグラス 【東伯地区】 11月中旬に播種終了、生育は順調。 【西部地区】 初期生育は平年並。 【大山地区】 草丈15cm程度で順調に生育中。 ○飼料用稲WCS 【鳥取・八頭地区】 ・東部地区170haの収穫が11月16日に終了。 ○飼料用米SGS 【鳥取・八頭地区】 ・SGS(もみ米のサイレージ)向けの83ha分の収穫が11月16日に終了。		